

「まちなか道の駅」を中心市街地に作っては



清流の会
津本憲一

問 新国際ホテルは、平成30年度の着工予定であり、中心市街地活性化基本計画について5年の計画期間をまたがるため、1年の延長を考えている。この基本計画に津山の玄関口である今津屋橋から鶴山通りに「まちなか道の駅」を設置することを盛り込んでいただくか。

答 国による中心市街地活性化基本計画の認定や補助金の導入にあたっては、事業主体の有無や事業内容の熟度、事業実施に

まちづくり

よる効果などいわゆる事業の蓋然性（※）が問われることになる。まちなか道の駅の提案はこれらのポイントを整理し事業の実現可能性を高めることが重要である。



中心市街地の活性化を

【その他の質問項目】

- ◆津山城郭と重伝建の現状と今後の展開
- ◆津山城下町歴史館条例

学校プールの集約化は？



津山誠心会議
中島完一

学校施設

問 学校プールは、年間3週間程度しか使用されていないが、維持管理費はどれくらいか。

答 維持費は、水道代や小規模修繕など1校当たり年平均60万円程度で、償却と部分更新費などが年当たり530万円程度となり、合わせると約600万円程度が必要となる。

泳力向上になるのではないか。

答 学校プールの集約化によるメリットは大きいですが、子どもたちが学校外へ移動することが必要となり、移動手段や時間の確保などが学校運営上も大きな課題となるので今後とも研究していきたい。



【その他の質問項目】

- ◆鳥獣害対策
- ◆安心安全のまちづくり

「将来世代」の負担軽減を



津山誠心会議
津本辰己

財政

問 平成27年度から37年度までは「実質単年度収支」の赤字が予想され「市税等の値上げ」が懸念される。自主財源増につなげる施策は。

答 第5次総合計画の主要事業の取り組みにより自主財源の収入見込みが好転し、行革効果必要額の圧縮が図れることを期待している。

財政調整基金

問 財政調整基金（※）等の収支不足対応基金は平成37年度の第5次総合計画の最終年度には「13億円」まで減少し、基金の繰り入れによる事業運営が難しくなり「将来世代」は負担だけを負うのでは。

答 基金は平成50年度には、64億円まで回復する。また、今後も将来世代の負担軽減を図るため収支不足対応基金の確保に努めていく。



【その他の質問項目】

- ◆行政運営